

Catalogue No.

20510-459

18 sign & pop advertising

サイン × 用美

おいしい料理だけがおいしさを語るわけではありません。料理や店舗を取り巻く全てが細部に渡りおいしさを表現することが求められています。おいしそうに思える内装、家具、メニュー、お客様は視覚から入る情報によってその判断をしています。お店のサインも情報を伝える大切な手段です。食べていただく前にお店の良さを伝える製品をお届けするのも「用美」の仕事です。

扉の色：老緑(おいみどり)

老松の葉のような灰みを帯びた深い緑色。常緑針葉樹の松が年輪を重ねて年を経たものを「老松」と呼びますが、その老松の深く濃い葉の色を象徴化した色名です。『若緑』の対語にあたります。

扉の柄：鹿の子(かのこ)

子鹿の白い斑点を模した模様。絞り染めの技法で知られ、非常に手が掛かるため、総鹿の子絞りの着物は贅沢品とされています。